

筑波大学医学群医学類の卒業時コンピテンシー・マイルストーン

コンピテンシーの領域	コンピテンシー	マイルストーン			
		Level 1	Level 2	Level 3 (卒業レベル)	Level 4 (Advanced)
<b>プロフェッショナリズム</b> 筑波大学医学群医学類は卒業時に豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識と倫理観を有し、人の命と健康を守る医師になる者としての自覚と責任感をもって医療を実践できる。常に向上心を持ち、省察を行い、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。	1. 社会規範を遵守するとともに、医師の責務と法的な理解に基づき、研究倫理・医療倫理の原則に基づいて行動できる。	社会人としての一般教養・常識を身につけ、その場にふさわしいマナーに則った行動ができる。研究倫理・医療倫理の原則を述べることができる。		利益相反を正しく理解し、社会規範を遵守する。学術活動/診療の場において、研究倫理/医療倫理の原則に基づいて行動できる。	
	2. 豊かな人間性をもって、患者とその家族に対し思いやりと敬意を示し、常に患者中心の立場に立って考え、利他的、共感的、誠実に対応できる。	豊かな人間性をもって、患者とその家族に対し思いやりと敬意を示すことができる。		医師のプロフェッショナリズムに則り、常に患者中心の立場に立って考え、利他的、共感的、誠実に対応できる。	
	3. 社会全体のニーズとその変化に目を向け、医療資源の公正な分配と、医療の質の向上に努めることができる。	社会全体の医療ニーズと医療資源の公平な分配に関する、国内外の問題点を挙げる事ができる。		社会全体の医療ニーズと医療資源の公平な分配のために、医療者が心がけるべきことを列挙し、医療の質の向上に努めることができる。	
	4. 自らを振り返り、自身の心身のコンディションをコントロールし、意欲を持って自己の向上を図ることができる。	振り返り・セルフマネジメントの基本的な考え方やおよびその必要性を述べることができる。		常に振り返りを通して自らの課題を明らかにして、その後活かすためのプランを挙げ、意欲的に自己の向上にむけて行動できる。	
<b>科学的思考</b> 筑波大学医学群医学類は卒業時に科学的な視点でとらえ、未知の問題を解決するための科学的な方法を理解できる。	1. 常に好奇心と探究心をもって事象をとらえ、科学的思考に基づいて解釈できる。	医学研究の意義を理解し、探究心をもって事象をとらえ科学的に検証する重要性を理解できる。		直面した課題に対し問題点を抽出し、科学的思考に基づいて科学的解釈ができる。	
	2. 研究の枠組みを理解し、課題を解決するための方法論を説明できる。	医学研究の進め方と研究倫理の重要性を理解できる。		医学的な課題に対し、文献や書籍を適切に解釈し、応用や解決のための方法論を説明できる。	指導者の指導のもと、研究計画を立案して実施し、学会発表や論文発表ができる。
	3. 医学の知識を病態や症状、治療と関連付けて理解し、問題解決に取り組むことができる。	疾患の病態生理や症状、治療に関わる医学的知識を理解し、課題に気づくことができる。		医学の知識を病態や症状、治療と関連付けて理解し、問題解決に取り組むことができる。	直面した臨床的課題に対し、解決のための適切な方法を提示できる。
<b>コミュニケーション</b> 筑波大学医学群医学類は卒業時に多職種を含むチームで連携し患者中心の医療を提供するために、患者やその家族、およびチームメンバーとの間で適切にコミュニケーションをとることができる。	1. 患者およびその家族を全人的に理解し、様々な背景をもつ患者に共感、敬意、思いやりをもって接し、適切なコミュニケーションをとることができる。	患者および家族の立場に立ち、その思いや、心理社会的背景を考慮することができる。コミュニケーションにおける共感、敬意、思いやりの重要性を理解できる。インフォームドコンセントの重要性を理解できる。	患者および家族に共感、敬意、思いやりをもって接することができる。模擬患者との面接において、心理社会的背景を考慮し、コミュニケーション技法を活用したコミュニケーションをとることができる。模擬患者に対し、病状をわかりやすく説明した上で、相手の意向を尊重したコミュニケーションができる。	一般的な診療の場*で、患者およびその家族を全人的に理解し、良好な患者医師関係を構築するために、様々な背景をもつ患者に共感、敬意、思いやりをもって接し、適切なコミュニケーションをとることができる。指導者のもとで、病状をわかりやすく説明した上で患者の意向を尊重した方針の決定ができる。	様々な診療の場*で、状況に応じ、患者およびその家族を全人的に理解し、良好な患者医師関係を構築するために、様々な背景をもつ患者に共感、敬意、思いやりをもって接し、適切なコミュニケーションをとることができる。
	2. 保健・医療・福祉など様々な場においてチームメンバーを尊重して適切にコミュニケーションをとり、多職種と効果的に連携できる。	グループ学習において、グループメンバーの考えを聞き、自分の意見を述べる事ができる。保健、医療、福祉の現場でケアに関わる職種を挙げる事ができる。	グループ学習において、他職種など立場の異なるグループメンバーを尊重したコミュニケーションをとることができる。保健、医療、福祉の現場でケアに関わる各職種の視点や役割の違いを理解できる。	保健・医療・福祉の現場において、チームの一員として、チームメンバーを尊重して適切にコミュニケーションをとり、多職種と効果的に連携できる。	保健・医療・福祉など様々な場において、状況に応じ、チームメンバーを尊重して適切にコミュニケーションをとり、多職種と効果的に連携できる。
<b>診療の実践</b> 筑波大学医学群医学類は卒業時に医療の基盤となっている基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を有し、それを応用して、患者の問題を全人的に理解し、それを解決するための適切な診療を実践できる。	1. 診療の基盤となる基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学などの医学知識を有し、問題解決に応用できる。	疾患の病態の理解に必要な基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の基礎知識を理解する。	基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を様々な疾患と病態の理解に応用できる。	診療の場において、基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を疾患の予防、診断、治療に活用できる。	診療の場において、基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を疾患の予防、診断、治療に活用できる。
	2. 一般的な診療の場において、患者の主要な病歴を系統的に正確に聴取できる。	診療に必要な病歴を構成する要素を提示できる。	模擬患者から、主要な病歴を系統的に聴取できる。	一般的な診療の場*において、患者の主要な病歴を系統的に正確に聴取できる。	様々な診療の場*で、複雑な病歴の患者において、診療に必要な病歴を正確に効率よく聴取できる。
	3. 患者の病歴にあわせて適切に身体診察を実施し、所見の解釈ができる。	身体診察の意義を理解して、身体所見から得られる情報を病歴を踏まえて説明できる。	正常な身体所見を理解した上で、系統的な身体診察を行うことができる。	診療の場において、身体診察を行い、所見を適切に解釈できる。	診療の場において、必要な身体所見を効率よく正確にとり、診断に活用することができる。
	4. 基本的な臨床手技を安全に実施できる。	診療における臨床手技の原理と意義を提示できる。	臨床手技を行う適応と禁忌を挙げ、基本的な手技についての実施方法を述べることができる。	指導者の監督のもとで、基本的な臨床手技**を行うことができる。	基本的な臨床手技**を一人で安全に行うことができる。
	5. 臨床推論の考えに基づき、収集した医学情報から鑑別診断を行い、検査計画を立案し、その結果を解釈できる。	主な症候の鑑別診断リストを挙げることができる。	ケース(paper patientなどの学習教材)について収集した情報から鑑別診断リストを列挙し、検査計画を立案し、結果を解釈できる。	一般的な診療の場*で、臨床推論の考えに基づき、収集した医学情報から鑑別診断を行い、検査計画を立案し、得られた結果を解釈できる。	様々な診療の場*で、臨床推論の考えに基づき、収集した医学情報から鑑別診断を行い、検査計画を立案・実施し、その結果を解釈できる。
	6. 基本的な治療計画を立案できる。	主な疾患の治療法とその効果と有害事象を述べることができる。	ケース(paper patientなどの学習教材)における、適切な治療法を立案できる。	診療の場において主な疾患の基本的な治療計画を立案できる。	様々な診療の場*において、患者の個性やニーズにあわせた治療の計画を立案できる。
	7. Problem Oriented Systemに基づく診療録を記載することができる。	診療録の目的とその構成要素を説明できる。ケース(paper patientなどの学習教材)における定型的な診療録の情報から診療の流れを理解する。	ケース(paper patientなどの学習教材)において、プロブレムリストを作成できる。	一般的な診療の場*において、Problem Oriented Systemに基づく診療録を正確に簡潔に記載できる。	様々な診療の場*において、状況にあわせた適切なタイミングで、Problem Oriented Systemに基づく診療録を、必要十分な内容で記載できる。
	8. 診療情報の共有のために、その場に応じたプレゼンテーションができる。	定型的な症例プレゼンテーションの基本骨格を説明できる。		診療の場において診療情報の共有のために、定型的な症例プレゼンテーションを行うことができる。	目的に応じて臨機応変に内容を組み立て、情報共有に役立つわかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。
	9. Evidence-based medicine (EBM) の手法を活用して、臨床において生じた疑問について必要な情報を収集して吟味し、患者への適用を提案できる。	EBMのステップを述べることができる。医学情報を批判的に吟味するために必要な疫学、統計学の基本的な知識を身につける。	ケースについて、疑問を明確化し、その解決に必要な情報を収集し、それを批判的に吟味できる。	診療の場においてEBMの手法を活用して、臨床において生じた疑問について必要な情報を収集して吟味し、患者への適用を提案できる。	Level 3を網羅的に迅速に正確に行うことができる。
	10. 医療安全の基本概念を理解した上で、患者および医療従事者にとって良質かつ安全な医療を提供する意識をもち、実践できる。	医療安全の基本概念を説明できる。	医療安全の遵守のために、医療者のとるべき行動を述べることができる。	患者および医療従事者にとって良質かつ安全な医療を提供する意識をもち、実践できる。	Level 3に加え、さらに周囲の状況に目を配り、組織の医療安全の向上に寄与できる。
<b>医療の社会性</b> 筑波大学医学群医学類は卒業時に人間個体はもちろん、地域・社会あるいは人類全体の問題を広くとらえ、保健・医療・福祉の関連法規、制度、システム、資源を理解した上で、社会基盤に基づく地域・社会の健康を支える活動を実践できる。	1. 地域・集団の健康に関する問題を科学的に分析し、問題解決に取り組むことができる。	人々の健康に関する問題を、個人レベルにとどまらず、地域、社会といった集団レベルの問題として科学的に分析する視点の重要性を理解できる。	地域・集団の健康に関する問題を科学的に分析するための指標、方法を理解できる。事例学習において、集団レベルの視点から問題点を抽出し、科学的に分析し、問題解決に取り組むことができる。	実際の現場で、集団レベルの視点から問題点を抽出し、科学的に分析し、問題解決に取り組むことができる。	実際に直面する地域・集団の健康に関する問題を科学的に分析し、主体的に問題解決に取り組むことができる。
	2. 保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職を理解したうえで活用し、医療経済を考慮した活動を実践できる。	保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職について理解できる。	事例学習において、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職、医療経済を考慮した活動を提案できる。	実際の現場で、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職、医療経済を意識して行動できる。	実際の現場で、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職を理解したうえで活用し、医療経済を考慮した活動を実践できる。
	3. 地域のニーズを把握し、地域の特性を活用して地域医療に貢献できる。	地域医療の特徴や問題点について考察することができる。	事例学習において、地域のニーズを意識し、地域の特性を活用する方法を提案できる。	実際の現場で、地域のニーズを意識し、地域の特性を活用するよう意識して行動できる。	実際の現場で、地域のニーズを把握し、地域の特性を活用して地域医療に貢献できる。
	4. 予防の視点を持ち、個人・集団を対象とした予防活動を実践できる。	予防・ヘルスプロモーションの意義について理解し、治療のみならず予防の視点を持ち、予防活動の基盤となる健康行動に関する理論について説明できる。	健康行動に関する理論を活用し、個人・集団を対象とした予防活動を立案できる。	指導の下で個人・集団を対象とした予防活動を一部実践できる。	実際の現場で、個人・集団を対象とした予防活動を実践できる。
<b>未来開拓力</b> 筑波大学医学群医学類は卒業時に自身の未来を切り拓き、広く社会に貢献するために、グローバルな視野を持ち、困難な状況においてもたくましくなやかに、積極果敢に挑戦する姿勢を示す。また、「教育の筑波」としての伝統を継承し、情熱をもって教育を実践し、周囲と協働してリーダーシップを発揮できる。	1. グローバルな課題に目を向け、多様性を受け入れつつ、国内外から広く情報を収集し英語で発信できる。	グローバルな課題に目を向け、医学・健康に関する国内外の様々なトピックに注目し、関心を示すことができる。	国内外の文献や書籍を検索し、適切な情報を入手することができる。社会における多様性を認識し、受け入れる姿勢を示すことができる。	グローバルな視点を持ち、問題解決する姿勢を示し、適切に英語でコミュニケーションができる。	グローバルな視点から問題解決をはかることができ、英語で発信できる。
	2. 目の前の困難な課題に対し、創意工夫を凝らして粘り強く解決にあたる事ができる。	失敗を恐れずに自ら工夫しながら挑戦する姿勢を示すことができる。		困難な状況においても既成概念にとらわれることなく、諦めずに粘り強く解決にあたる事ができる。	
	3. 自らの考えを明確化し、適切な方法で情報発信できる。	自らの考えを明らかにし、相手に伝えることの重要性を理解することができる。	学習の場において、明確化した自らの考えをわかりやすく示すことができる。	場に応じて、自分の考えを相手にわかりやすく、適切にプレゼンテーションができる。	自分の意見や成果を広く社会に発信できる。
	4. 場に応じて積極的に教育を実践するとともに、教育を通して自らの学びを深めることができる。	教育の重要性について理解できる。		場に応じて教育を実践し、自らの学びを深めることができる。	医学教育の理論を理解し、効果的な教育を行うことができる。
	5. チームメンバーと協働し、目標の達成に向けてリーダーシップを発揮できる。	協働学習の場において、問題解決のための議論をリードし、意見をまとめることができる。		チーム活動の場において、メンバーと協働し、目標の達成に向けてリーダーシップを発揮できる。	様々なチーム活動の場において、問題解決のためのチームマネジメントができる。

\* 一般的な診療の場とは、病棟・外来診療などのClinical Clerkshipを実施する場をいう。様々な診療の場とは、救急外来や患者急変時などの緊急対応が必要な場を意味する。  
 \*\* 医学教育モデル・コア・カリキュラムで提示されている臨床手技